

# 第 36 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

## 議事メモ

日 時：令和 2 年 7 月 11 日(土)15:36～16:15

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

### 1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、富川 副知事、島袋 政策調整監、  
金城 知事公室長、池田 総務部長、宮城 企画部長、松田 環境部長、  
宮沢 県警本部長、名渡山 子ども生活福祉部長、大城 保健医療部長、長嶺 農林水産部長、  
嘉数 商工労働部長、渡久地 文化観光スポーツ部長、上原 土木建築部長、  
比嘉 会計課長、金城 教育長、我那覇 病院事業局長、棚原 企業局長、  
糸数 保健衛生統括監、真栄城 医療企画統括監

### 2 報告事項

#### (1) 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 海軍病院から得た米軍基地内の患者発生情報について総括情報部から報告
  - ✓ 3月に既報の患者から現在までの合計 62 名の患者情報について、得ている情報を振り返った。
  - ✓ 7月7日に得た情報に報告漏れがあった。
  - ✓ 日本人の接触者について、得ている情報を説明。日本人従業員に濃厚接触者がいた場合については、日本側で検査をして頂きたいとのこと。
  - ✓ 米軍側の説明では、感染経路は基地内ということだが、独立記念日やその前後に、米軍基地関係者が基地外のパーティに参加していたという情報もあり、県としての対策を検討しているところである。
- 秘書課に入った情報によると、普天間基地はソフトシェルターと呼ばれる状況で、エッセンシャルワーカー以外は自宅待機が命じられている。
- 海兵隊等から得た感染症関係について知事公室長から報告
  - ✓ S O F A 関係者の患者発生について、報告はあるが人数等の報告はない。
  - ✓ 6月30日と7月1日に参事監から在沖海兵隊に対して口頭で申し入れを行ったことに続き、7月10日に副知事から海兵隊太平洋基地司令官に対し、情報の提供や感染対策の徹底等について、口頭で申し入れを行った。

- ✓ 米軍の運用上の方針として、安全保障上の観点から、個別の感染事案の詳細については非公表とされている。
- ✓ 米国防総省の方針では軍隊内に厳しい感染対策の規律が求められている。
- ✓ 7月10日付けで在日海兵隊は健康保護レベルを引き上げた。
- 副知事が外務省沖縄事務所と防衛局長に対し、県民の安全と不安解消のため、情報の開示や、キャンプハンセンと普天間基地について閉鎖することなどを申し入れたことについて、報告があった。
- この後、四軍調整監に対し、知事から申し入れを行うことについて、副知事から報告があった。
- 基地所在市町村に県の対応を説明したところ、宜野湾市長や北谷町長から、県民の不安解消のために県と連携していきたい旨、話があった。

#### <主な質疑や意見>

- 濃厚接触者の日本人従業員について、その周辺の方々については、調査されているのか。
  - ✓ 基地内での調査状況も含めて、調査中である。
- 米軍患者の容体は情報提供があるのか。沖縄県側の病床に影響はあるのか。
  - ✓ 海軍病院を外来受診していることから、重症者ではないと思われる。
  - ✓ 米軍患者は基地内の海軍病院で診ると報告を受けているが、重症者の発生などで県内病床に大きな影響が生じないように、対応したいと考えている。

#### (2) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から148・149例目の患者の発生があった。
  - ✓ 先日発表した147例目の濃厚接触者であるため、検査して陽性が確認された。
  - ✓ 現在は指定医療機関に入院中。

### 3 閉 会

- 米軍人は沖縄人との交流があるので、基地の外に感染が広がっている可能性は否定できない。第2波という認識の元、各部局とも体制を整えて警戒するよう、知事から指示があり、閉会とした。